

国土審議会第15回北海道開発分科会 議事概要

- 1 日 時：平成 27 年 1 月 30 日（金）14:00～16:00
- 2 場 所：中央合同庁舎 3 号館 11F 特別会議室
- 3 出席者：[委員] 奥野分科会長、佐藤（信）委員、徳永委員、橋本（聖）委員、
上田委員（代理：生島副市長）、高橋委員（代理：高井副知事）、
石原委員、家田委員、大内委員、佐藤(俊)委員、中嶋委員、
橋本（哲）委員
[国土交通省] 西村副大臣、澤田北海道局長 他

4 議事次第

- (1) 開会
- (2) 分科会長の互選
- (3) 国土交通副大臣挨拶
- (4) 議事
 - ① 新たな北海道総合開発計画の策定について（諮問）
 - ② 今後の調査審議の進め方について
 - ③ 「北海道開発の将来展望に関する有識者懇談会」の議論の結果報告について
 - ④ その他
- (5) 閉会

5 議事及び主な発言内容

- (1) 分科会長の互選について
委員の互選により、奥野委員が分科会長に選出された。
また、奥野分科会長から、分科会長代理として大内委員が指名された。
- (2) 新たな北海道総合開発計画の策定について（諮問）
西村副大臣から、新たな計画の策定についての諮問文が手交された。
- (3) 今後の調査審議の進め方について
資料 4 について事務局から説明し、了承された。計画部会の委員の人選については、奥野分科会長に一任された。
- (4) 「北海道開発の将来展望に関する有識者懇談会」の議論の結果報告について
資料 5 - 1 及び資料 6 について事務局から説明がなされた。

【主な意見】

- ・ 農業生産性が高いと思われる十勝など北海道の特色ある地域を深掘りし、他の地域にも展開するための方策を議論することが必要。
- ・ 北海道の夏場の魅力、冬場の厳しさ、広さの克服についての具体的な発信が必要。
- ・ 農業関係者は TPP 交渉の動向を注視している。農業は雇用、生活を支えている。北海道の魅力で

もある。一次産業を守っていくことが必要。

- ・トラック運転手の不足により、農産物のコストに影響がでることが懸念され、鉄道貨物による輸送への期待が寄せられている。
- ・他の地域が苦手とする寒さ・雪・氷は北海道の魅力、大きな資源である。観光、スポーツ、食文化も北海道の魅力。例えばスイスは、観光面での北海道の能力を引き出す上で示唆に富む。
- ・アイヌ文化をオリンピック・パラリンピック東京大会の開会式で発信すると良い。
- ・農業立国の実現には、地域における教育と医療が充実していることが必要。
- ・北海道のすばらしさは開拓者魂である。その高い精神文化能力を引き上げるためにどう考えていくかが勝負である。
- ・北海道の食、観光、農業の3点セットを融合させて考えることが必要。食は付加価値がどの程度付いているか、もう一度考えてみる必要がある。観光は多言語やユニバーサル表記になっているか、情報発信も重要。新千歳空港と新千歳以外の空港をそれぞれ入口又は出口とする交通ネットワークなど道内の対流性のストーリーを考え、メニューを示していくことが必要。
- ・北海道開発法の理念と、現在の状況変化を認識し、これまでの計画についても厳しい見方で検証しなければ、新しい次の計画につながっていかない。
- ・リアリティのある計画をつくっていくためには危機感が必要。人口減少等に北海道はより危機感をもつことが必要。本州のコンパクト+ネットワークとは異なる北海道独自の地域の作り方があって良い。人口密度が北海道より低い地域で、人々がどう暮らしているのかレビューして欲しい。北方の国の中の人口の少ない地域、例えばスコットランド、北アイルランド、アラスカはどうかを調べてみると、日本の中の北海道の良いところと反省すべきところが見えてくる。北海道は日本にとっての北方の守りでありゲートウェイであるという地政学的視点が重要。
- ・北海道の強みにてこ入れをし、日本経済に役立つ北海道の実現にベクトルを定め計画を策定すべき。人口減少への対応も計画に盛り込むべき内容である。
- ・観光リソースのあるところを太くすれば、そこに引っ張られて周辺も発展する余地がある。ニセコでは観光客の夕食難民が発生。お客様の立場に立ったおもてなしが必要。
- ・国土を守る観点からのインフラ整備は今後も必要。夢のあるプロジェクトも必要。
- ・北海道農業は、全国一律でなく産業政策と地域政策の両面で考えることが必要。
- ・北海道の物流の全体像を協議する場が必要。
- ・情報過疎の現状がある。情報網の整備が必要。
- ・訪日外国人観光客が日本を訪れ、何を感じて帰国したかの情報を踏まえた対策が必要。
- ・北海道は危機管理の基地になれる。
- ・自然エネルギーを水素に変換して備蓄するシステムを整えるなど、北海道で生みだせるエネルギーの活用について検討が必要。
- ・北海道経済は中央からの財政支援に支えられている。北海道の経済を伸ばしていかなければならない。例えば、食のビジネスを伸ばすには北海道の構造改革を進めることが必要だが、農業の大規模化をしようとしても農地の出し手がもういない。大規模化が進んでも地域の空洞化を招いてしまう。産業面と地域面のバランスを考えることが必要。
- ・地域の疲弊は産業の衰退が原因。知識集約産業が大都市圏に集約し、企業誘致のみに期待できな

い中、地域産業への新たな仕組みが必要。例えば民間の発想を取り入れビジネス化できるモデルや、既存の経営資源を活かしながら地域外の資源と融合させた北海道らしいイノベーションを進めることが必要。

- 道内の各大学の特色を活かしながら、産業化する新しい仕組みが非常に重要。
- 地域のクリエイティビティを高める人材を育成する地域独自の戦略の明確化が非常に重要。
- 地域金融の機能高度化が重要。目利き、コーディネート、マネー供給など金融機関が連携して新しい産業をサポートするという意味で、金融の役割が非常に重要。
- 北海道新幹線の5年前倒しの効果を道内に波及させるためには、札幌市の都市機能を高めることが必要。道内の高速道路網の整備も必要。札幌市内から高速道路へのアクセス強化が必要。
- 国土強靱化について、札幌市も危機管理の拠点になるべきと考えている。また、北海道がエネルギーの供給拠点になれるよう考えていきたい。
- 北海道にとって、目下の課題は人口減少問題と認識しており、新たな計画の検討はタイムリーである。地域の雇用、医療、教育の問題、住む環境の充実確保の検討が現実的なアプローチと考える。住む環境の充実確保に新幹線、高規格道路、空港等を活用することが必要。
- 物流の観点からは港湾の機能強化が必要。
- 北海道では一昨年、日本の中でリスク分散等の観点からバックアップ拠点構想を作成した。この点での北海道のポテンシャルも発信したい。
- 国土のグランドデザインの基本概念は対流。北海道にも手掛かりとなるものがあると思う。もう一つは共助社会。普通の人々が公共を担うことが重要。

(以上)

※ 速報のため、事後修正の可能性があります。(文責 事務局)